

北海道ブロック戦略懇話会【書面開催】 主な意見

書面開催日：令和3年6月28日（月）

<計画全般について>

- ・他の基礎圏域では提供できない高次都市機能を高めつつ、北海道全体における広域的な交流・連携機能の強化を図るため、道内ネットワークの核となる札幌都市圏の環境整備が不可欠であるという観点を追加していただきたい。
- ・今般のコロナ禍を契機とした人々の意識・行動の変化を的確に捉え、ICTの利活用や移住・定住の促進など、コロナ後の社会を見据えた社会資本の整備を図るべきである。
- ・本計画の策定及び各種事業の推進にあたっては、連携を密にしながら進めていただきたい。
- ・コロナ禍を背景とした「東京一極集中是正」の面から「恵まれた疎」である北海道でのワーケーションや移住を促進するためにも広域分散型社会である道内地域間の移動手段としての道路網の整備は急務である。また、道内の物流ネットワークとして、或いは広域観光振興による地域経済活性化の面からも鉄道ならびに空港施設の維持は極めて重要である。
- ・災害・感染症等、緊急時のリスクに強い社会システムの構築をご検討いただきたい。

<防災・減災について>

- ・防災・減災、国土強靱化に関して、観光地のあるエリアの状況を情報発信する体制を構築すること、道内各観光地への災害情報等を発信する環境整備が重要である。
- ・近年、激甚化する自然災害への対応としての「流域治水」をはじめとした防災・減災はもとより、北海道の戦略的産業である「食」と「観光」を推進していく観点からも社会資本の計画的な維持・整備が必須である。
- ・今後のインフラの選択と集中を考えた場合、「流域治水」のような地域と一体となった検討が必要になる。
- ・道路輸送・鉄道輸送・海上輸送・航空輸送と総合的な物流の強靱化が、北海道の暮らし・経済を支える上でも極めて重要である。
- ・千島地震等による津波を想定した場合、高速道路等、インフラが果たすべき役割が高まっていると考える。
- ・近年、災害が頻発している状況の中、迅速で円滑な災害対応を図るためには、BCPの策定・運用が大前提であり、平時から災害への備えの重要性を認識し取り組む必要がある。
- ・防災・減災に関する主要取組としてハード・ソフト一体となった取組が掲げられているが、両者が上手く融合することで、各取組が一層効果を増すものになると考える。

<インフラメンテナンスについて>

- ・今後においても予防保全型事業の推進を求める。
- ・早急な長寿命化対策等、老朽化対策の促進を望む。
- ・各市町村においては、技術者不足、技術力不足、情報不足といった課題もあり、国による指導、研修を通じた技術者育成を従来にも増して強化すべき。
- ・「事後保全」型インフラメンテナンスから「予防保全」型インフラメンテナンスへの転換に関しては全面的に賛成である。そこには予算面での制約があると思われるが、優先順序をしっかりとつけて計画的に実行していただきたい。

<食と観光について>

- ・「美しい景観形成」や「魅力ある地域づくり」などについても、「観光」と結びつけ、官民一体の取組を実施することで、より効果的になるものとする。
- ・本道が国内最大の食料供給基地であり続けることはもとより、観光やエネルギーの分野においても我が国を牽引する役割を担うためには、基幹産業である一次産業に関連する基盤整備をはじめ、道路・港湾・鉄道などの地域の暮らしと産業経済を支える安定的かつ継続的な交通・物流ネットワーク確立、さらには観光の活性化や本道に賦存する再生可能エネルギーの積極的な利活用を図ることが不可欠である。
- ・アドベンチャートラベルのメニューの1つとしても、インフラツアーが大変魅力的であるとする。インフラツアー単体ではなく、他の地域・コンテンツとの融合による広域的なツアーが組めるよう、インフラの観光活用を推進していただきたい。
- ・来道する観光客への安全・安心が、今後さらに求められる。災害情報とMaaSなどとの連携が必要である。
- ・アドベンチャートラベル・ワールドサミットの開催方法の変更により、今回実施に係る正式名称が決定している。
- ・「食」と「観光」は北海道の一番の強みなので、この強みをさらに強化するために、それを提供する「生産空間」を多角的な角度から分析して、重層的な政策を打ち出していきたい。
- ・本道の豊かな漁場と資源に恵まれた環境を生かすため、漁場から消費地まで、港や道路等のインフラ整備を促進するとともに、高度な衛生管理による高付加価値化に資する施設の整備を推進していただきたい。

<インフラ分野の脱炭素化について>

- ・北海道は、我が国のカーボンニュートラルの実現と同時に地球規模での環境対策への貢献に向け、果たすべき役割がますます大きくなっているため、「ゼロカーボン北海道」を推進する観点を記載し、その取組をより一層推進していただきたい。
- ・風力等の再生エネルギーで発電したクリーンな電気の余剰分を有効に活用し、水素を製

造・貯蔵することで様々な分野へと利用拡大を図り、将来的な「ゼロカーボン北海道」を目指していくべき。

<インフラ DXについて>

- ・インフラ分野におけるデジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進は、高齢化、労働力不足などの課題を抱えている北海道において、新たな成長、より豊かで安心・安全な暮らしの実現に向け不可欠であると考えます。ICT 基盤整備の推進が極めて重要と考え、今後、整備拡充が必要と考えます。また、DX 推進には、人材の育成強化が必要と考えます。

以上